

メディア表現III 3. カット編集・トランジション

目次

1. Ver 22.3の新機能
 - i. ビン
2. カット編集・トランジション
 - i. ツールについて
 - ii. トランジション
 - iii. カット編集応用

前回のおさらい

- プロジェクト・データ管理(フォルダにまとめる！)
- ワークスペースとパネル
- シーケンスとコンポジション(設定)
- 書き出し

について学びましたね。

ところが...新しいバージョンで何か変わるらしい、と少し述べていましたが、かなり変えてきました。

Ver 22.3の新機能

1. 組み込みのレビューと承認が追加された Creative Cloud 用の [Frame.io](https://frame.io)
2. Premiere Pro での再設計された読み込みと書き出し
3. アプリケーション内のナビゲーションを容易にする新しいヘッダーバー
4. Adobe Sensei 機能を使用した自動カラー補正
5. ワークフローの機能強化

機能の概要 | [Premiere Pro \(2022年4月リリース\)](#)

1は学生アカウントで使えるか未確認なこと、4はカラーの回で扱えばいいこと、5は全体的なことなので、2,3について説明します。

とりあえず

アップデートしていない人は、アップデートしながら聞いてください。

Adobe Creative Cloudを開いて、最新になっていればいいです。

新規プロジェクトの作成

作成すると、プロジェクトの設定画面でしたが、それが

- メディアの読み込み画面

に変更となっています。前回、

「シーケンス設定を自分でするより、動画をタイムラインパネルにドラッグ&ドロップすることで、自動的に設定をしてくれて便利です。」

と説明しました。

Adobeもわかっていたようで、それをさらに前に進めた形になっています。

具体的には

1. 新規プロジェクト作成
2. 読み込むメディアの選択
3. 選択された動画が並んだシーケンスが自動で生成

となります。ちょっとやってみます。

右上の「コピー」を使うと、作業フォルダにコピーしてくれてくれるみたいです。

ビン

右上に「新規ビン」っていうのがあります。ビンも初めてかもしれません。

素材を管理するフォルダのようなものです。Finderのフォルダとは別管理となります。

ちょっとやってみます。

便利なのか？

自動で動画を並べてくれたシーケンスって言うのは本当に便利なのでしょうか？

複数選択して、勝手に並べてくれるわけで、動画の順番はファイル名順とかになってしまいます。

と思って、ファイルをComanndクリックで一つずつ追加すると、その順番に並んでくれました。

でも、映像編集の時に、

- 使う素材しか素材フォルダにない
- 順番が決まっている

以外だと、そんなにメリットがなく、結局最初から自分でシーケンスに配置しそうな気がします。

他の意図があるのか？

後述しますが、読み込み・編集を行き来しやすいインターフェイスになっているので、これで追加していくのか、とも思いましたが、新しいシーケンスができるだけでした。

とりあえず読み込みはこの辺で終わり次に行きます。

次の変更点は

ヘッダーバーが一新されています。

- 左に「ホーム」「読み込み」「編集」「書き出し」

がまとまっています。あれ？ワークスペースの切り替えは？

ワークスペースの切り替え

右の方にアイコンが3つ並んでいて、その左がワークスペースの切り替えに割り当てられています。

切り替えるとわかるのですが、左の「編集」は変わりません。

つまり設計思想が変わって、

1. 最初に読み込むよね
2. いろいろ編集作業するよね
3. 色んな編集方法あるからワークスペース切り替えるよね
4. 最後書き出すよね

と言うのをインターフェイスとして明確にしたと考えられます。

ワークスペースの切り替え

これまでに比べると、

- ワークスペースアイコンをクリックしてメニューを表示
- ワークスペースを選択

と2クリック必要となります。

1クリックで切り替えたいという人は、「ワークスペースタブを表示」とすることでこれまでと同様に扱うことができます。

クイック書き出し

右のアイコンの真ん中はクイック書き出しとなっています。

とりあえずちょっと書き出したいときにはここからプリセットを選択して書き出せばOKと言うことになります。

- 保存場所の設定
- プリセットの選択

だけですので、名前の通り手軽に書き出すことができます。

書き出し???

では、左の書き出しでは何ができるのでしょうか？

これは、従来のファイルメニューから「書き出し」「メディア」としても同じ画面になりました。

左にたくさん並んでますね。このswをONにすることで、

- YouTubeに直接書き出し
- メディアに書き出すと同時に、YouTubeにもアップロード

何てことができるようです。

(前からできたみたいですが、見えづらいところにありました)

裏技？

そして、このメディアファイル等は複製することができます。

この間

- H.264
- H.265
- ProRes422HQ

あたりを覚えておけば良いと言いましたが、それを同時に書き出すことができてしまいます。

Media Encoder???

あれ？右下のボタンが「書き出し」が青になっていて、「Media Encoderに送信」が地味になってます。これは、MediaEncoder使う必要ないのでは？と言うメッセージに今のところ思えます。

実際、プリセットは最初数が少ないですが、「その他のプリセット」でMediaEncoderでしか選べなかったものが選べるようになっています。

そもそも、前は

1. 形式
2. プリセット

の順に設定していましたが、プリセットの中に形式が来ています。

新機能まとめ

ちょっと時間があれば、触って確認してみましょう。

まだ2年生だとそんなに触ってないので、よくわからないと思いますが、これはかなりの大きな変化で詳しく覚えてないけど10年ぶりくらいのリニューアルじゃないかと思っています。

カット編集・トランジション

今日の本題に入ります。

ツールについて

1年の時には選択ツールを使ってクリップを長くしたり短くしたりして編集することを学んだと思います。

編集ポイントのツールとして

- リップルツール
- ローリングツール
- スリップツール
- スライドツール

の4つがありますので、触って挙動を知っておきましょう。

やってみよう01

せっかくだから新しい機能使っていきましょう。

1. 今日のプロジェクト用のフォルダを作成する(mr3_02等)
2. Premiereで新規プロジェクト作成
3. サンプルメディアから5秒以上のものをCommand+クリックで3つ選択
4. 作成
5. 選択ツールを使って、1,2秒くらい重なるように2,3番目をずらしましょう。

今日のサンプルデータはassetsフォルダに入っていないませんが、それでよしとします。
作業フォルダまで持ってきてたい人は、「コピー」をONにしてください。

クリップの間にリップルツールを持って行って、左右にずらしてみよう

クリップの間のほんの少し左か右にするとマークが変わります。そこでドラッグすると、イン点・アウト点を変更することができます。トータルの尺が変更されます。

クリップの間にローリングツールを持って行って、左右にずらしてみよう

編集ポイントが移動し、前の映像は長くなり、後の映像は短くなります。トータルの尺は変わりません。

クリップをスリップツールで左右にずらしてみよう

クリップの尺は変えずに、イン点・アウト点を変更することができます。

真ん中のクリップをスライドツールで左右にずらしてみよう

トータルの尺は変更されず、真ん中のクリップの位置が移動します。

ポイント！

これは、配置されたクリップの素材の前後に余裕がないとできません。

最初に「1,2秒くらい重なるように」と言ったのはそういう理由です。

基本的には

- 素材のどこを使う？

と言うのを変更するためのツールですから、素材がない部分には利用できないということです。

参考：編集ポイントに関連した4つのツールの使い方

トランジション

基本的なトランジションの使い方は

- クリップの間を右クリックして、「デフォルトのトランジションを適用」

でしたね。適用した後に、さらに右クリックで秒数指定もできました。

他の簡単なトランジション

1. ウィンドウからエフェクトパネルを開きましょう。
2. ビデオトランジションを開いて適当に選んで、クリップとクリップの間にドラッグ&ドロップ

たくさん種類あるので、説明はしません。

[Premiere Proで使えるビデオトランジションのサンプル一覧](#)

カット編集応用

カット編集は、徐々に切り替わることなくパッと映像が切り替わることを指しますが、いくつもテクニックがあり、その中でも今日はJカット,Lカットについて紹介しようと思います。

参考:[カット編集とは？コツ3つとすぐに使えるテクニック9選を解説](#)

参考:[9 Cuts Every Video Editor Should Know | Filmmaking Tips](#)

Jカット・Lカットとは？

2つの映像と音声のカットする位置をずらすテクニックになります。

- Jカット: 次のクリップの音声の先に聞こえて、映像が後から現れてくる
- Lカット: 次のクリップの映像の先に現れて、音声が後から聞こえる

JカットとLカットでシーンを繋ぐ

やり方を見てみましょう

[How to Edit Video with the J-Cut and L-Cut in Premiere Pro \(MUST KNOW\)](#)

操作方法だけ

今日の映像だと、音がないので厳密な意味では体験できませんが、操作方法だけ伝えておきます。

- ローリングツールで、普通に左右に動かすと、映像も音声も同じ動きをする
- Optionを押しながらローリングツールだと、映像か音声だけ移動できる

これにより、Jカット・Lカットは簡単に行うことができます。

まとめ

最終的に魅力的な映像になれば良いわけですが、様々なテクニックが存在します。普段から、映像を見る時に、「あ、こんな編集してる！」と気を付けてみるようにしましょう。